

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和5年11月2日
タイトル	みんなで植えたサツマイモを収穫したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和5年10月18日（水）福山市立箕島小学校1年生と2年生が農業体験をしたので取材しました。

福山市立箕島小学校がある福山市箕島町釣ヶ端新開地区は、市街地の近くにもかかわらず水土里ネット福山が施行したかんがい事業により約40haの畑地にパイプラインが張り巡らされている農業振興地域です。

疏水百選にも選ばれた七社頭首工用水の受益により、地域ブランドの野菜が栽培されています。

水土里ネット福山の理事で地区代表の沖 誠理事をはじめ、組合員の檀上靖典さんが小学生の農業体験に協力しておられます。

箕島小学校の1、2年生36名が、学校から近くの畑まで歩いて収穫に来ました。この畑は、子ども達が5月にサツマイモの苗を植付けしてから檀上靖典さんが毎日お世話をしておられました。畑の周りにはイノシシに食べられないように厳重に柵を巡らせてあり、その甲斐あってイノシシに荒らされることなく収穫の日を迎えることができました。

畑に到着した子ども達は、大きな声で「よろしくお願いします。」と挨拶してくれました。

畑では、収穫しやすいように事前にサツマイモのツルを切って準備してありました。

沖理事が「5月に自分が植えた所を覚えていますか。」と聞くと子ども達から「覚えとるよ。」「どうしよう忘れた。」とかわいらしい返事がありました。

品種は紅はるかとシルクスイートの2種類なので、紅はるかを1年生、シルクスイートを2年生が収穫することになりました。

子ども達は土から出ている茎の周りの土を手でかき分けます。大きなサツマイモが顔を出すと周りの土を慎重に掘っていきます。少し掘るとサツマイモを揺らしてみても、びくともしないことが分るとまた土を掘っていきます。なかなかサツマイモが出てこない子もおり、みんな黙々と掘りました。

いつの間にか軍手をはずして素手で掘っている子は爪の中まで土が入っています。長靴に土が入ったと脱いで見せてくれた子は靴下も長靴の中も土だらけでした。



「うんとこしょ、どっこいしょ」と友だちと声をかけあいながら楽しく芋掘りをしました。

「僕もう何回も掘っとるけ、芋掘りのプロなんじゃ！」

「サツマイモは揚げたのが好き。家で作ってもらおう。」

みんな元気いっぱい芋掘りに熱中しました。

最後に沖理事が「また芋掘りしたいですか。」と聞くと、みんな元気よく「はい」と手をあげてくれました。

「1つの茎にイモがいっぱいついてた。」「1つだと思ったら下の方を掘ったらいっぱい出てきた。」など感想を聞きました。

子ども達は、サツマイモの収穫をやり遂げて達成感に満ちた表情で学校へ帰っていきました。

収穫したサツマイモは、家に持って帰るほか、給食でも提供されます。

子ども達が、家庭や学校でサツマイモの収穫や植付けの思い出話に花を咲かせることとでしょう。

宅地化が進み子ども達は農業が身近なものではなくなりつつありますが、農業体験を通して直接肌で土の感触を感じることができ、農業を身近なものに感じてくれることと思います。

水土里ネット福山は、引き続き農業体験に協力することで21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。



大きなサツマイモに笑顔！